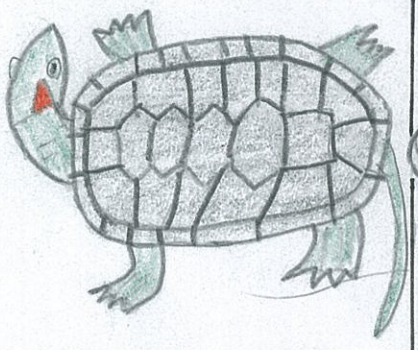
人と生き物のきずな新聞

発行者　吉岡智史　吉岡裕生

在来種のカメ激減

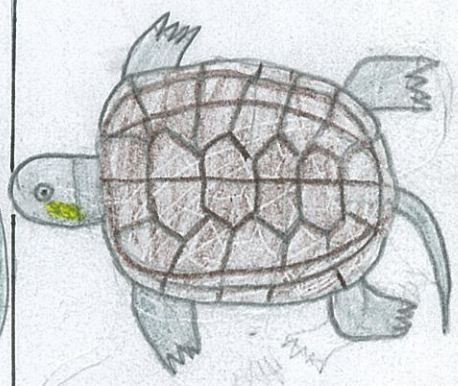
川や池はアカミミガメでいっぱい

カメの特徴と見分け方



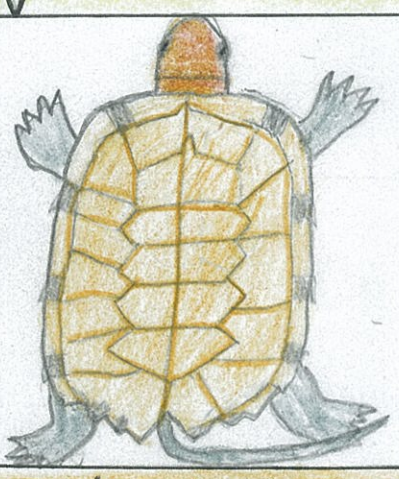
ミシシッピアカミミガメ（ミドリガメ）

家の近くの八条が池にもたくさんいる外来種のカメ。顔に赤いもようがある。子どものときはミドリガメとよばれ、ペットショップで売られている。



クサガメ

わきの下にくさいにおいを出す腺があるので、クサガメとよばれる。背中のキール（すじ状のでっぱり）が3本ある。顔に黄色いもようがある。雑食性。



ニホンイシガメ

ぼくはオオサンショウオもいるきれいな川で見たことがある。性格はおとなしい。若いカメは甲らの後ろにギザギザがある。キールは1本ある。日本固有種。

今、日本の川や池では、もとからすんでいた方メが減っています。そのかわりに外来種のミシシッピアカミミガメが増えています。ぼくはどうしてミシシッピアカミミガメが増えたのか調べました。そして、在来種のカメを守るために出来ることを考えました。

人と生き物のきずなはたくさん見つかりました。人と生き物のきずなが結ばれたその生き物は、恩返しをしてくれることがわかりました。ぼくも、生き物を大切にしようと思っています。

アカミミガメが増えた理由

京都市動物園にはおとぎの国というコーナーがあります。そこには、アカミミガメ・イシガメ・クサガメがいます。ぼくは飼育員の山本さんにアカミミガメが増えた理由を教えてもらいました。

①産卵する個数が多い。
アカミミガメは一度の産卵で20個以上の卵を産む。クサガメやイシガメは10～15個。

②産卵の回数が多い。アカミミガメは一年に2～3回産む。クサガメやイシガメは1～2回。

③水のよごれに強い。
アカミミガメは比較的きたない水でも生きられる。

④活動期間が長い。
アカミミガメは冬眠に入るのがおそく覚めるのが早いのでエサをたくさん取れる。

⑤気性があらい。
アカミミガメとイシガメ・クサガメのすんでいる場所は重なる。アカミミガメはけんかに強いのでエサの取り合いに勝つ。

⑥捨てられたカメが野生化する。
ミドリガメはペットとして人気があるが、成長すると30センチぐらいになる。人の指をかむこともあるので飼えなくなった人が捨てる。

カメのためにぼくたちができること

智史　ペットは、さいごまでせきにんをもってかう。ぜったいすてない。

裕生　きれいな川の水にするために森を大切にして不法投棄を絶対にしない。

カメキチくん　よしおかさとし

人とアキアカネ

アキアカネのヤゴは田んぼで育ち、羽化する。秋に里に帰って来て田んぼで産卵する。そのかわり害虫を食べてくれる。

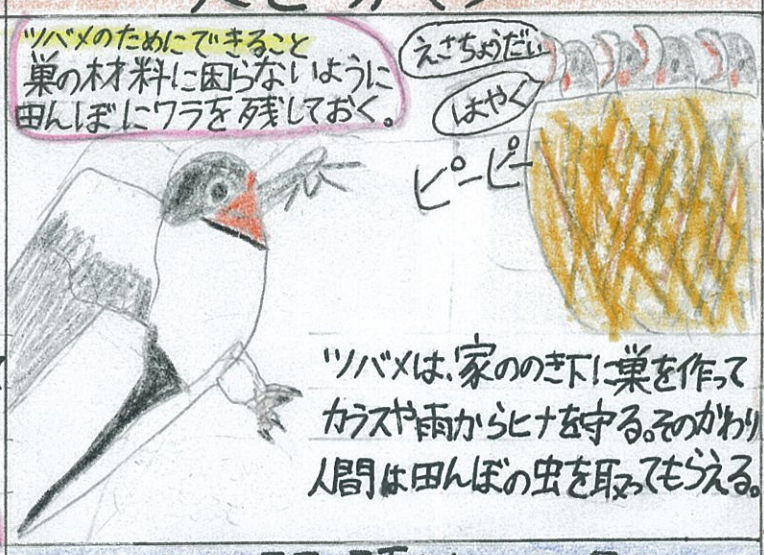
アキアカネのためにできること

卵が産めるように田んぼに水たまりを残す。

人とツバメ

ツバメのためにできること

巣の材料に困らないように田んぼにワラを残しておく。



ツバメは、家ののき下に巣を作ってカラスや雨からヒナを守る。そのかわり人間は田んぼの虫を取ってもらえる。

人と琵琶湖の魚

ニゴロブナは魚道を上がって田んぼで産卵する。
オオクチバスは段差を上がれないので稚魚を食べられない。
琵琶湖に出て大きくなったニゴロブナはふなずしにできる。

ニゴロブナのためにできること

田んぼに上がって産卵できるように魚道を作る。

編集後記

智史　ぼくは、起承転結を考えて四コマまんがをかきました。動物も交通事故にあわないように守ってあげたいです。

裕生　人間は、たくさんの外来種を放して、日本の動物を絶滅の危機に追いやっています。生き物がくらしていけるように水や森を大切にしてしかなければなりません。ぼくは人と生き物のきずなを強めていこうと思います。

人とは生き物が助け合っています。